

泰日協会学校（バンコク日本人学校）学校だより
Thai Japanese Association School



令和 6 年
第 10 号

〈メールアドレス〉
<https://www.tjas.ac.th>
〈電話番号〉
02-314-4151

能登半島地震で被災された皆様へのお見舞い

この度の令和 6 年能登半島地震により、犠牲となられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された全ての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

また、被災地域の皆様の安全確保と被災された皆様の生活が一日も早く平穏に復することを祈り申し上げます。

バンコク日本人学校
校長 藤原 鎌次

「新年」「新学期」の始まりにあたって

1 月 8 日(月)の始業式において、次の内容について話しました。

- ・ 3 学期は、短くても、今年度の締めくくりをする大切な学期である。
- ・ 新年や新学期など、「新」新しいという言葉には、大きな力がある。
- ・ 人はそれまでの弱い自分を変えたくても、なかなかきっかけがなくて変えられないことがある。そのきっかけの一つが「新」が多い「今」である。
- ・ この 3 学期は、次の学年になるための準備の学期でもある。
- ・ 準備とは、自分に自信をもてるようにすることである。
- ・ そのためには、まず、今何が得意で何が苦手なのかをはっきりさせる必要がある。
- ・ 得意なことは、誰にも負けなくらいもっと得意にする。
- ・ そして苦手なことは、苦手だからといって逃げないで、精一杯努力することが大事である。
- ・ 3 学期だけでは、苦手なままで終わるかもしれない。でも努力したという事実が、自分に自信をもてることに繋がる。
- ・ みんなの 3 月終わりの姿を楽しみにしている。

3 学期は、大変短い学期ではありますが、今年度の総まとめの重要な学期でもあります。バンコク日本人学校全教職員一丸となって、児童生徒たちの健やかな成長を実現するために、精一杯努力してまいります。

どうか、今年もご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。



中学部体育科(9年部主任) 中嶋麻衣子

2連覇を目指して ~人のココロが動く作品に~

平成24年度から中学校の体育で必修化されたダンス。バンコク日本人学校では8年生で必修、9年生では選択制で学習しています。『全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール』はクラス単位か体育の授業単位で出場できるダンスの大会です。これまでは予選を勝ち抜いた都道府県代表の学校が東京で決勝戦を行う大会でしたが、COVID-19の影響から令和3年度からオンラインで実施され(動画審査)、海外からも参加できるようになりました。しかし、令和3年度のバンコク校はまだ登校が開始されておらず、出場を断念したのを覚えています。

昨年度、8年生5クラスが挑戦し8年3組が規定曲部門で優勝にあたる文部科学大臣賞を受賞することができました。部活がない在外教育施設で生活する生徒たちに、何かに一生懸命になってほしい、達成感を味わってほしいとの思いで出場したことが懐かしく思い出されます。



今年度は合唱祭や体育祭、9月から開始される帰国生入試のことを考えると、9年生にとっては日程や体力、精神的にも負担が大きいことが予想されていたので出場するか否かを迷っていました。しかし、夏休み前の9年生は「出ます」「今度は私たちが文部科学大臣賞を取りたいです」「自由曲部門がいいです」「振付もやってみたくて」と意欲に満ち溢れていたのです。「え？自由曲部門って2分間全部自分たちで振付やで？」と返しましたが生徒たちの思いは強く出場することを決意しました。昨年度に予選を通過できなかったクラスの生徒は悔しさを味わっていたのだな、挑戦したいのだな、と改めて感じさせられました。



夏休みにはGoogleスプレッドシートを活用して振付案を交流し、集まって練習もしました。2学期に入ると編入生も誘って練習に励みました。とはいえ、9月は実力テストや合唱祭の練習、10月は定期テストや体育祭の団演技の練習でコンクールの練習どころではありません。予想以上にハードな毎日を過ごす中、お昼休みや隙間時間を見つけては練習する姿には感心しました。予選動画の提出締切が体育祭(10/28)の翌日という過酷なスケジュールの中、無事撮影が終了。予選発表11/10の8:00に

9年生のすべての教室で発表画面を共有しました。予選通過の文字を見たときの歓声は忘れられません。

予選を通過した後の生徒たちは、目の色を変えて自分たちでぐんぐん成長、団結していきました。お昼休みやバスの発車前に時間を確保して自主的に練習をはじめたのです。私がいなくても、声をかけあい自分たちに足りないモノは何かを考えて行動していました。残念なことに体育祭でケガをした生徒が大会に出場できなくなってしまいました。自分が出場できなくて悔しいはずですが何かできることはないかとチームのために大活躍!! 授業の様子をタブレットで撮影し、

その動画や指導された内容を Google スライドで共有しながら仲間にアドバイスを送っていました。ダンサー20名はその想いに応えようと、できないステップやジャンプ、息が合わないといけない交差の部分を何度も何度も練習しました。また、誰より練習していた生徒がプレッシャーに押しつぶされそうになり泣き出し、もう動画に映らないと言い出すこともありました。そこでも「大丈夫できる」「一緒に動画に映らないと後悔するよ」「今やらないとメダルもらえないよ」と励まし合い進んできました。

1人では成し得ない作品を、仲間と創る難しさや楽しさを感じることができたのではないかと思います。



多くの保護者の方に参加していただき大会当日を迎えることができました。3位から順に発表…「俺たち優勝だから大丈夫だって」という生徒と、両手を握りしめて目を瞑り祈る生徒がおり、緊張が高まる中、優勝校が呼ばれるのを待ちました。「タイ バンコク日本人学校」と呼ばれたときは大歓声！私は「出場するなら優勝以外は狙っていないから～」とみんなに言い続けていたので本当に嬉しかったです。念願の2年連続文部科学大臣賞を受賞した瞬間、喜びと安心した気持ちになりました。

生徒たちには常に『人のココロが動くかどうか』が大切だと伝えていきます。まず重要なのは自分が踊っていて楽しいのか。次に見ている人がもっと見たくなるような演技かどうか。最後に『ぞわっ』となる瞬間があるかどうか。歌やダンス、あらゆるスポーツで鳥肌が立つ瞬間があります。できそうにもないことを簡単そうに成し遂げるからこそのおもしろさがあります。そんな作品を彼らと創ることができて幸せです。私はスポーツに限らずいろいろな場面で『挑戦する』『結果を出す』『良い影響を与える』人でありたいと考えており、生徒たちにもそんな存在になってほしいと願っています。



勝つ楽しさや嬉しさ、負ける悔しさや悲しさを味わう経験は小中学生の時期にとっても大切だと思っています。勝っても負けても全力を出したときには達成感を味わうことができます。子どもたちには、仲間と何かを成し遂げるための過程を大切にしながら、勝利に向かう経験を学生時代にたくさん積んでほしいです。



自由振付曲 中学生部門入賞チーム



 文部科学大臣賞

学校名: タイ バンコク日本人学校

チーム名: MOON ASIA

得点: 197点

